



(お知らせ)

平成 28 年 5 月 24 日

## 4K・8K スーパーハイビジョンの ケーブルテレビ再放送実現に向けて 伝送方式の共同評価を開始

- NHK は、KDDI 株式会社 (KDDI)、株式会社ジュピターテレコム (J:COM)、日本デジタル配信株式会社 (JDS) とともに、衛星による 4K・8K スーパーハイビジョン (以下、4K・8K) 放送をケーブルテレビや光ファイバー網で再放送するための伝送方式の評価を開始しました。
- ケーブルテレビの世帯普及率は 50% を超え、4K・8K 放送の普及にはケーブルテレビ伝送技術の実用化が重要課題です。NHK は、2018 年の衛星による 4K・8K 実用放送開始に向けて、2015 年度までに現行のケーブルテレビ施設をそのまま利用して 4K・8K 放送を伝送する、複数搬送波伝送方式を開発しました。
- ケーブルテレビでの複数搬送波伝送方式を利用した 4K・8K 再放送の実現には、この方式に対応した受信機が必要となります。NHK、KDDI、J:COM、JDS の 4 社は、この伝送方式の信号を復調する小型の評価用受信装置<sup>\*1)</sup>を試作して共同で評価実験を進めます。
- 5 月 26 日 (木) ~29 日 (日) に開催する「技研公開 2016」では、複数搬送波伝送方式による、実際のケーブルテレビ施設を通した 8K の再放送の実験の様子を展示します。この展示は、衛星からの 8K 信号を商用のケーブルテレビ施設で伝送する初めての展示となります。

\* 1) 複数搬送波伝送方式を復調する新開発の LSI を使用

## (別紙)

### ○複数搬送波伝送方式とは

ケーブルテレビ施設におけるチャンネルの使用状況に応じて、64QAM<sup>\*2)</sup>や256QAMなどの異なる変調方式の搬送波を組み合わせることによって、4K・8K信号を伝送できるようにする方式です。

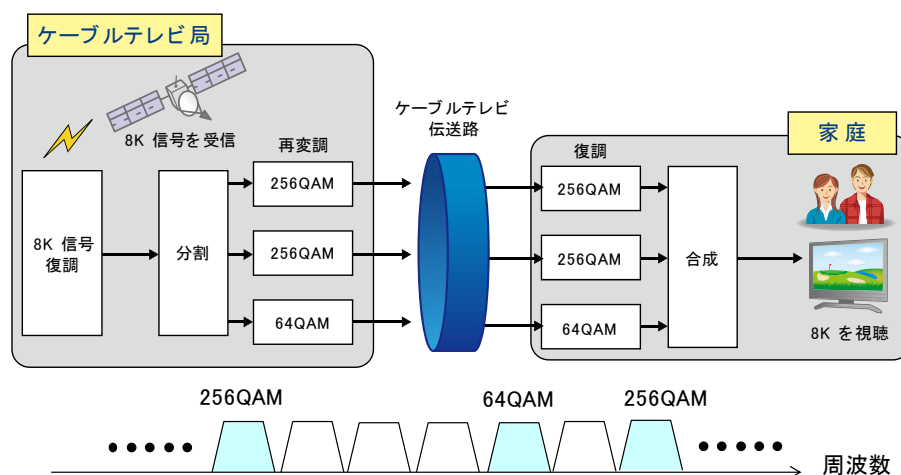


図1 8K信号を3つのチャンネルで分割伝送する例

1チャンネル(6MHz帯域幅)あたり、64QAMで約29Mbps、256QAMで約39Mbps伝送可能

### ○受信機の構成例と試作する小型評価用受信装置

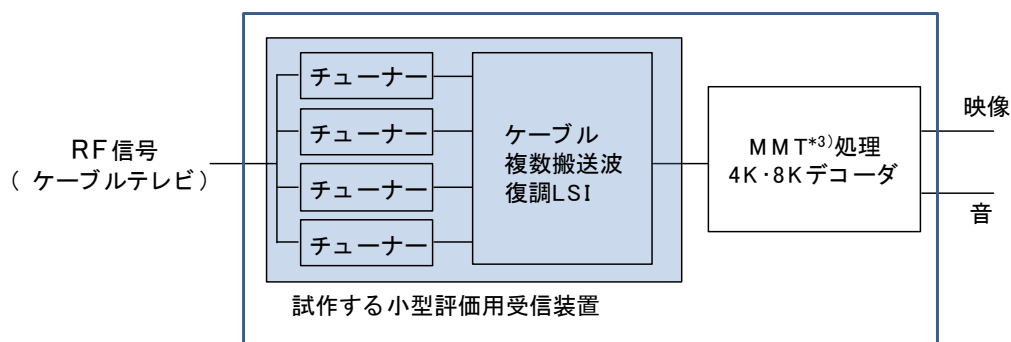


図2 ケーブルテレビ用4K・8K受信機の構成

受信機のうち、RF信号を復調する部分を試作して性能を評価

\*2) QAM (Quadrature Amplitude Modulation) : 直交振幅変調

\*3) MMT (MPEG Media Transport) : 4K・8K衛星放送で採用された多重化方式